

かずさの博物誌

トウネン

～小さなオレンジ色のシギ～

文・写真／成田篤彦

2012.5.20

をヒヨコのようにチヨコ、チヨコと忙しく動き回っていた。
「あ！あそこにもいる」と数えていくと八羽いた。

眼が大きく、シギにしてはくちばしが太くて短い。肢は黒。ほほから首、胸がほんのり赤いオレンジ色、背もオレンジ色だが、黒っぽい斑紋がある。腹は白い。

羽毛の色が、風でひるがえったハスの葉裏の赤っぽい色に見事に溶け込んでいる。

六年前の五月に、市街地に囲まれたハス田を訪れた。あちこちに淡い赤色のハスの若葉が生え始めていた。

バスを収穫し終わつた泥田の水面が手前に広がり、その奥にハスの葉や枯れた茎が、生えている場所に行つた。

友人から「あそこに、トウネンがいます」と指さされて、眼をこらしたが、まるで分からぬ。

双眼鏡でのぞくとスズメ大の太めの小鳥がうつむいて、あちこちの泥の面をつつき、ハスの枯れた実や茎などの間



©成田篤彦

トウネンは夏には姿を消して、秋に再びやってくる。

秋は胸のオレンジ色は消え、全身、灰褐色になり、地味な色の冬羽になる。干潟や海岸に打ち寄せた藻類のマット上でえさをとる姿がしばしば見られる。

さて、トウネンはシベリア東部の北極圏で繁殖し、冬は東南アジアや東インド、ニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドに渡つて越冬する。

東京湾岸では以前は数百羽が渡来していたが、最近は数が減少し、数百羽を越える記録が少なくなつた。そのため一般保護生物に指定されている。ちなみに、彼らはもつとも小型のシギの一つ。名の由来は小さいところから、「当年子」つまり、その年生まれの子からトウネンとなつたという。ところで、今年の五月にハス田にいった。セイタカ



▲トウネン夏羽 チドリ目 シギ科 春と秋に2回訪れる

=2006年5月25日 木更津市

東京湾岸では以前は数百羽が渡来していたが、最近は数が減少し、数百羽を越える記録が少なくなつた。そのため一般保護生物に指定されている。ちなみに、彼らはもつとも小型のシギの一つ。名の由来は小さいところから、「当年子」つまり、その年生まれの子からトウネンとなつたという。

ところで、今年の五月にハス田にいった。セイタカ



▲トウネン(左と中央)とセイタカシギ(右)

=2012年5月6日 木更津市

それだけに、「人気の高い夏羽のトウネンが狭いハス田で、こんなにたくさん見られるなんて」思いもしなかつた。この幸運に感激もひとおであった。

上総に訪れる鳥の種類と数が減つてここ数年はトウネンを見つけ出ることが出来なかつた。それに、年々、鳥の逃げ足も速くなつた感じていた。

それだけに、「人気の高い夏羽のトウネンが狭いハス田で、こんなにたくさん見られるなんて」思いもしなかつた。この幸運に感激もひとおであった。



▲トウネン冬羽

=2011年9月12日 木更津市